

金融通信

発行所

金融通信社

本社・東京都千代田区岩本町
2-4-5 インスタイルスクエア1303

編集発行人 亀川省吾
TEL 03 (3863) 1792-3 番
FAX 03 (3863) 1794 番

ハッピーロード大山(西京推薦)!

全信協、商店街ルネコン最優秀賞(大樹)



斉藤理事長

募集の際、応募しやすいように、新規の取り組みや、規模の小さな取り組みを対象とする「わかば部門」と、活動費一千万円以上、またはマスコミ報道・表彰歴のあるもの「大樹部門」の二部門に分けて募集した。

なお、コンテストの募集に
商店街ルネコン・コンテスト(ルネコン)は、全信協の地域活性化推進室が「商業企業基盤整備機構」日本商工の協力のもと、結果的には「一件」に達した。

全信協(会長・大前孝治城北信金理事長)は、全国の商店街を活性化させるキャンペーンの一環として、このほど「商店街ルネコン・コンテスト」の審査結果を発表した。対象は、「平成二十一年中に展開された、商店街活性化のための活動」とし、「わかば部門」と「大樹部門」(活動費用一千万円以上、またはマスコミ報道・表彰歴のあるもの)に分けて実施。関係四団体(中小企業基盤整備機構など)から後援を受け、二百五十五件(わかば部門百九十九件、大樹部門六十六件)の応募があった。審査委員会の厳正な審査の結果、最優秀賞に大樹部門で「ハッピーロード大山商店街振興組合」(西京信金・推薦)、「わかば部門」は、佐原おかみさん会(佐原信金・同)が決定した。なお、優秀賞では大赤羽祭(城北信金・同)等も受賞した。

信金だからできること 信金しかできないこと

「わかば」は佐原おかみさん会



④全国のネットワークを活かす大山商店街(右)とれたて村には各地の産物が並ぶ



活動の内容としては、物品販売を目的とするイベント、日頃の利用を感謝し収益の一部を還元する謝恩イベント、商店街との周辺の地域住民の交流を目的とするイベント始め、伝統的な祭りの継承、イルミネーションやシャッターイベントなどを用いた演出や地域資源を活用した新商品の開発など広域多岐にわたっており、地域の元氣化を

図ること、電子化を越えた商いの原点を再発見させてくれる、新・原始商取引とも言えるもの(西川氏)が並んだ。なお、審査は、①活動の目的、②効果、③継続・発展性、④アイデア、ユニークさなど総合的な評価がなされた。それらの賞に応じた表彰額と副賞賞金が贈呈される。他、その他の応援団体にも、奨励賞の表彰額が贈呈される。コンテストが「過剰のもの」に終わらないで、このイベントが地域の関係者を巻き込んだ記念イベントとして拡大する、そのためにはしんきんネットワークが期待される。全信協では五月に、今回の応募による活動を全て収録した「商店街活性化事例集」(仮称)を刊行し、全国の信用金庫を通じて配布する。大山(板橋区)で花開く活動中の「ハッピーロード大山」が、大樹部門の最優秀賞に輝いたのを記念して、その実態を探った。大山商店街振興組合による、アンテナショップとする

が成功した。同商店街は、大山駅南口にある。推せんした西京信用金庫(理事長・斉藤昭雄氏)の大山支店(廣取支店)は、今回の受賞をこころから喜び、地域社会のためにも参加、キャッチフレーズは「信金だからできること、信金しかできないこと」に全力でお手伝いしたいという。信金の底力が発揮された。さらさら祭り(三月一日・四月三十日)の一日、ハッピーロードを訪問した。全国でも有数の商店街として評判。長さはアーケードで、約五百六十軒、約三百店。アンテナショップに「とれたて村」を設け、産直の野菜や米など実に一千品目をそろえている。東京ではここでしか買えないものばかり。首都圏でまちをPRし、全国の十二町村とネットワークをつくり、さらさら祭りと大山から行く。例えば地方の修学旅行の生徒が大山商店街を訪れるなど、人の交流も活発だ。両者のニーズが相まって大きな効果も上げている。商店街の端にあるお福地蔵



推薦した西京信金の大山支店

で「福がふえる、福がたまる」と笑顔でアピール。集約のつけ抜き地蔵の人氣とも共通する。こうした商店街の活性化には、伝統と革新といった住民の関心がバランス良くある。西京信用金庫の大山支店で取材すると、地域への協力もあり「とれたて村」の参加市町村・商店街イベント・現地交流ツアーも活発。一日の来街者数は二万八千人、約一キロの商圏を有している。これまで各種の表彰を受け、平成十九年五月には首相官邸主催のレセプションにも参加、キャッチフレーズは「一生つきあいします」。平成十九年度の商店街市営は二億二千四百万円。会費として毎月、一店舗平均五万円の会費。売出し委員会、財務委員会、アンテナショップ運営委員会、街づくり委員会。まさに、ハッピーロード大山である。